

## 2019 年度実施概要

## 学校名

気仙沼市立階上小学校

## 採択活動名

「豊かな海，気仙沼」見つめよう，考えよう，気仙沼の水産業

## 取り組みの概要

本校の海洋教育では、主に5年生が郷土の豊かな自然環境や生活を営む人々に関わり合うことで、「郷土の環境や食文化・人とのかかわりを見つめ、自分のあり方を考え」、「持続可能な郷土の担い手を育む」ことを、教科横断的な学習を通して取り組んでいる。この学びが、6年生での地域の食品・食材・料理を通して、地域の食文化や人々について考える「スローフードの学習」へとつながる。地域の水産業と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かした人々の工夫や努力によって支えられていることに気づき、海と共に生き、ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域となるために、様々な今日的課題を総合的に考え、課題解決的に探究し、発信させている。

## ①森と海との関係を知る

海の豊かさの秘密を探るために、NPO法人「森は海の恋人」副理事長の畠山信氏から、養殖の牡蠣やホタテが育つためにはエサとなる豊富なプランクトンが必要とする「栄養塩類」が必要であることを教えていただいた。特に栄養分は、川をさかのぼって森の腐葉土の中で作られていることを知り、「海を守るために、森に木を植えていること」や「海と森はつながっていること」を理解した。

## ②「豊かな海」へとつながる、「豊かな森」のしくみを確かめる

野外活動で、岩手県一関市の健康の森でブナの原生林を散策した。学校へ戻ってから、ブナ林の土と校庭の土とを比較し、土壌生物やバクテリアによって落ち葉が森の土の中で分解されていることを知らせた。栄養分がふくまれた水が川となって流れて海の栄養となりワカメなどの海藻類が育っていくことを自分たちの目で見ることによって理解を深めさせた。

## ③岩井崎の生物環境の調査

気仙沼水産試験場の方を講師にお招きし、学区の岩井崎の潮だまりで生物観察を行った。ヒトデやウニ、小魚など、たくさんの生物がいることを知ることで、震災後も海は豊かな姿で生きていることを体感させることができた。また、海岸にごみが打ち上げられていたことから、ごみ拾いを行った。海のごみは、学校に持ち帰り、その後調査や分別をし、海ごみの世界的な問題やマイクロプラスチックの問題につなげ、探究学習へと進めた。

## ④海洋ごみ、マイクロプラスチックの影響

海のプラスチックなどのゴミが環境へ与える影響や海洋保全の取組について、「南三陸 海のビジターセンター」の平井和也氏にお出でいただき学習した。また、マイクロプラスチックの現状と取組について、東京海洋大学の内田圭一准教授にお出でいただき学習した。ふるさとのきれいな海や豊かな水産資源を守り、持続可能な海洋にしていくためにどうしていくべきかを考えさせた。主体的に行動する大切さを知る機会となった。

## ⑤わかめ養殖体験（6～2月）

階上地区漁協青年部千尋会のご協力により、年間を通したわかめの養殖体験活動を行っている。この活動を通して、地元の特産品であるわかめの養殖業に携わる人々の思いや工夫などに直接ふれることができた。今年度は、昨年よりもさらに地球温暖化などの影響が原因と考えられる「海水温の上昇」によってわかめの生育が悪かったことを教えていただいた。「海と生きる」漁師という仕事の苦労や水産業の復興へ向けた強い思いを知る機会となっている。

## ⑥「海のフォーラム」の開催

これまでの学習でお世話になった地域の講師の方や保護者を招待し、「ふるさとの恵み～つなげる・広げる・深める～」のテーマで、まとめた成果をポスターセッションで発表し合った。今後も持続して自然と関わり、階上・気仙沼の未来の姿を考えることで、これまでの学びを確かめ広げる機会となった。

## 活動中の写真



岩井崎のごみ拾い調査（7月）



わかめの種ばさみ体験（11月）



海のフォーラム（2月）

## 実施単元名（主な単元）

- |   |
|---|
| 1. 総合的な学習の時間「豊かな海，気仙沼」（5年生）                 |
| 2. 社会科「水産業のさかんな地域」（5年生）                     |
| 3. 社会科「これからの工業生産とわたしたち」（5年生）                |
| 4. 理科「魚のたんじょう」（5年生）                         |
| 5. 総合的な学習の時間「名人発見！ぼくらの階上」（3年生）・・・岩井崎の秘密を探ろう |